



昏睡レイプ写真を使って  
チマメ隊を脅迫レイプ!

下校途中に突然  
身に覚えのない  
写真で脅され...

基本画像50枚+  
テキストなし42枚+  
文章など12枚の  
合計104ページ収録

ダンナ





あらすじ

脱法ハーブティーでチマメ隊 昏睡レイプ

シャロちゃんに紹介されたチマメ隊とのお泊り会。  
一人三千円の報酬に釣られてきたチマメ隊を  
シャロちゃんお手製ハーブクッキーで昏睡させて  
マヤという女の子を凌辱する手筈だったのだが、  
チマメ隊が自己紹介の時に偽名を名乗ったことで  
マヤが誰なのかわからず計画は破綻してしまおう。

シャロちゃんからは着信拒否されたまま  
刻一刻と迫る目覚めのタイムリミット。

見知らぬ女の子に避妊具を着用せず挿入し  
膣内射精するという非道な蛮行の見返りに  
シャロちゃんと生本番して貰える約束だったが、  
任務に失敗すればシャロちゃんと援交できる  
機会はもう一生なくなるかもしれない。

こうなったら三人まとめて犯るしかない……。



とらうわけで、まずは「の子からにする。

ズルズル...

ぞろん

パジャマ姿ではなく裸なのはついさっき  
眠る直前に自分から服を脱いだからだ。






シヤロちゃんから貰ったハーブティーを  
飲むと思考力が低下してしまっらしく、  
千円札一枚で喜んで裸になってくれた。







あの状態なら本名を聞けば簡単に教えてくれたのだろうが、すぐ寝てしまった。名前なら持ち物から判別できると思ってたが、身元がわかる物は一切持っていないかった。

その辺の徹底ぶりはリゼ先輩の指示っぽい。

そもそもリゼ先輩がおっぱいをシヤロちゃんに触らせてればこんなことになってないのに……。






カクカク

んあッ

カクカク

カクカク





なんだかりぜ先輩に腹が立ってきた。  
りぜ先輩の胸を揉みまくって  
お仕置きしてやりたいとか  
考えながら、手近なおしりに  
八つ当たりしてしまっ。

手触りの良さについて時間を忘れそうになるが  
三人相手だからゆっくりはしてられない。



まずは処女かどうか確認。  
とはいっても処女膜なんて  
一度リゼ先輩に見せて貰った  
だけなのでよくわからない。

とりあえず割れ目を広げて視姦する。

ぐにゅ...

うう




他の二人も比較してみたが  
三人とも処女だと思う。

もし非処女なら二つつそり生ハメして  
膣内の感触を味見してみようかと  
エッチなことを考えていたのだが。

く  
ぽあ





早速、自分の一物を握りしめて  
寝ている女の子の大事なところへ  
照準を合わせるように近づける。

今の自分の姿を人に見られたら  
通報間違いなしの危険な絵面だ。  
女の子の貞操が大ピンチである。

ぐいっ



互いの性器同士が触れ合う。さっき  
チマメ隊が寝てるフリしてないかを  
調べるため三人とベロチューして  
反応を確かめた時も緊張したが  
同じくらいドキドキする。

ぴとっ





サイズの合っていない小さな膣口に  
膨張しきった亀頭を押し当てる。



しゃっ  
しゃっ



ゆっくり押し込もうとした瞬間、  
いきなり声が出てビクッとする。

あ

ビクッ...

レイプされかかっている状況なのに  
無意識に感じてしまっているらしい。





挿入の圧迫で起「してしまっただかと  
冷や冷やしたが、気を取り直して  
処女膜を破らないギリギリの  
ところまで先っぽを捻じ込む。



ナリッ

ギョ



ここで処女喪失直前の  
記念撮影をしておく。  
後は仕上げだ。  
もう我慢できない。

パニャッ





相手が痛みで目覚めようとお構いなしに  
処女膜を引き裂いて無断侵入していく。







射精寸前の肉棒を奥深くまで挿入。





無垢な子宮めがけて発射。

うっ…あ

はあ

はあ

確実に孕むように一滴残らず精液を注ぎ込む。





……という妄想しながら先端だけ  
埋没させた状態での疑似中出し。  
変態じゃないんだし、実際に  
あんな真似するわけない。





この中出しした証拠写真を  
シャロちゃんに送ったのだが  
フェイクなのがバレてしまい  
リテイクを要求される。

シャロちゃんがこれだけでは満足せず  
話がこじれてハードルが悪化したのは  
主にチノちゃんの扱いが原因だった。





二人目の女の子も一人目と同様に

処女を奪わず済ませようとしたのだが、

一人目相手に出し過ぎたせいか二度目の

射精に至れず時間かかって焦るあまり

つい深く挿入し過ぎて傷つけてしまい、

「マヤは無事なのに関係ないチノちゃんに

怪我させるなんて！」とシヤロちゃんを

怒らせる」とになってしまったのだ。





回想は以上だ。一部に妄想も混じっていたが。

単にシャロちゃんの鬱憤を晴らすだけならば  
マヤちゃんを裸にひん剥いて精液まみれに  
しただけで十分だったかもしれない。

約束の援交はしてもらえないだろうが、  
そこは自分が我慢すればいいだけだ。

だがチノちゃんが巻き込まれたら話は別となる。  
シャロちゃんはなぜかチノちゃんにだけ甘いので

「チノちゃんに勝手に乱暴した罰として

マヤをカブづくで犯してきなさい」と命令された。

そんなこんなで今日は下校途中のマヤちゃんに  
電話をして再び家にお招きしたわけなのだが

「なんで私の名前とケータイ番号を知ってんの？」  
と、まるでストーリーカーでも見るような目つきだ。







「で、渡す物って何?」

今日はほかの二人に内緒でマヤちゃんにだけ渡す物があるといって来てもらったのだ。

「まず、こないだの写真を見て欲しいんだけど」「それってひょっとしてよくあるアレ?」

秘密の写真ばら撒かれなくなかったら

俺の彼女になってくれとかそいつの?」

ちよっとサービスしてハダカ見せたからって

あんま調子のらないで欲しいんだけど」

前に会った時はこんな子じゃなかったはずだがなんかしらんがめっちゃ警戒されてるっぽい。

さすがに身長140cmの女の子を彼女にするのは世間の目が厳しいかな。もし彼女にするならリゼ先輩がいい。嫁ならシヤロちゃん一択だが。とにかく一枚の写真をマヤちゃんに手渡す。







ちなみに手渡した写真に  
写ってた女の子はメグちゃんだ。

射精直前のタイミングで目覚めて  
とても気まずい雰囲気になった。







「嫌がる」とはしない約束だったけど、ちっとも嫌がらなかつたから、つい最後まで……ね」

「ナニしてんだよ変態！ ロリコン！」

写真に写ってるのが自分だと勝手に思い込んでくれたようだ。話が早くて助かる。

「一応、誤解のないように言っておくけど」

渡したいのは写真じゃなくて追加の謝礼分でその希望額について相談したいんだけど」

「ふざけんな！ 強姦魔！ 死ね！」

「謝礼の受け取り拒否して訴えるつもりなら進学先への影響とか考えて警察沙汰にするか」

事前に親御さんと話し合ったりしないと……」

「それも脅迫と変わんないじゃん！」

親バレしたくないらしく通報は回避された模様。通報されそうになっても実際にはやってないから冗談だったとすればつくられるつもりではあったが。





「それで、いくらくれんの？ しょぼい額なら  
街の国際バリスタ弁護士呼ぶから」

あつという間に立ち直った。リゼ先輩とは違った  
凶太さだ。シャロちゃんの十倍メンタル強そう。  
話し合いの前にお茶を淹れるとしよう。  
まだ例のハーブティーが残っていたし。

「寝てる間にスキんシップしちやってゴメンね。

もし許してくれるなら三千円あげる」

そう言って三千円を入れた茶封筒を机に置く。

「えー？いくらなんでも安すぎない？」

「マヤちゃんは気持ち良さそうに寝てただけで  
何もしてないんだからこんなもんだよ。

でも、「こっちのお願いを聞いてくれたら  
もっとお礼する用意があるんだけど」

眼の前で一万円札を入れた封筒を横に並べる。





「お願いっで、どっせエッチなやつでしょ……」

「うん、マヤちゃんとのエッチをちゃんと

やり直したいんだけどいい?」

「うーん……、どーしよーかなあー」

予想外にチヨロくて驚く。あのハーブティーに媚薬みたいな効果があると見て間違いない。

たった一万でオツケーしてくれて助かった。

もし十万でもダメだったら本当に強姦しなまきやいけなかったが自分にはそんな真似は無理だ。

「それでエッチの時はできるだけ罵ったり

嫌がって抵抗するような演技してくれたら

三千円プラスしてあげるけど、どっつ?」

「どっついう趣味してんの? まじキモい」

「そうそう、そんな感じでやってくれたら

ほんの十分くらいですぐ終わるから」

「だから、まだやるなんて言っていないっば」





あ

とっぴ

ごらん



若干、迷ってるようだったが  
抱きかかえてベッドに運んでも  
下着を脱がしても抵抗してこない。  
さつきまでの警戒心がウソみたいだ。  
盗撮用に仕掛けたカメラにも  
気付いてない様子。

ぽおー〜





援交の様子を盗撮し  
それを後で編集して  
レイプ動画と偽って  
シヤロちゃんに見せる。  
もうこれしかない。





マヤちゃんのがんが変わる前に  
手早く済ませなきやいけない。  
前戯なしでいきなり挿入する。

えっ

えっ

おっ





チノちゃんやメグちゃんに初挿入した時は  
自分の精液を処女穴に塗り込んだりしたが、  
今回はリゼ先輩とソーププッコする目的で  
買っておいいたローションを開封して使おう。

うん！？

よめっ

まって！！







おめい

おめい

したはた

ひた



「やっぱり無理！こんなん入るわけないって！」

「前に（メグちゃんと）した時には  
ちゃんと入ったから平気だったって」

「処女じゃなくても、初めてのエッチがこんな  
変態のおっさん相手とか生理的に無理！」

「歳しか離れてないのにおっさん呼ばわり。  
シヤロちゃんの命令が変態っぽい事実だが。」





ズクッ

なんとかかなだめすかして  
本番前のリハーサルで  
まずは先っぽだけ試しに  
挿入してみることに。



かっ  
かっ

いっ  
ちゅ

ぬゅ

うっ  
うっ  
...



わっ

まだ勃起してない肉棒の  
先端部分を割れ目の中へ  
慎重に押し込んでいく。



ク  
ク  
ク



初めて感じる異性との性的な  
接触到緊張するマヤちゃん。

ドキッ

や

あ...

ズ...

ヒッ







んん

うんざり

んん

アッ



びるるっ

フーッ

フーッ

キッ

無抵抗で膣内への侵入を許していた前回と異なり  
性交を拒むかのように閉ざされている入り口に  
肉棒を突き立てていく感触は昏睡レイプの時とは  
また違った興奮があり劣情を刺激される。





「痛い痛い！タンマー！ストップ！」

処女喪失の際に気が紛れるよう制服の上から

胸を揉みながら、これからマヤちゃんのを初めてを

もらおうと二ノろで中断を要求されてしまった。

いぎゅ

んあッ

みちっ



亀頭が埋没した状態で  
急激に勃起したせい  
か結合部に血が滲ん  
でいる。  
引き抜こうとして  
も入口に  
カリ首がひっかか  
って大変だ。

ガッ





「こんなにおっきいの入ってて

起きなかつたとか変だつて！」

大きいという感想に悪い気はしないが

狭すぎてもうちよつとローションが必要だ。

「マヤちゃんはまだ処女なんだから

うまく入らないのも仕方ないよね」

ぐず

はあ

はあ



「え？それってどいつ……」

「じゃ、本番いくけど約束通り

初めてのエッチで思いっきり

嫌がる演技しっかりお願いね」

「どっついつい」と？ちよつと待ってー！」

なんか話が違っ！」

まじゅっ

ググ







いっ

ぬいっ

カ

カ

ぬいっ

カ



暴れようとするマヤちゃんを抑えつけながら  
ローションで滑りをよくした肉棒で狭い膣内を  
蹂躪していく。下校途中の女の子を連れ込んで  
嫌がるのもお構いなしに処女を奪っている。  
それもゴムを付けずに生挿入で。








ガ  
あ  
あ  
あ  
!!

ズ  
リ  
ュ  
ッ

ギ  
ッ





これでチマメ隊を三人ともオトナにしたのだが  
嬉しさがこみ上げるよりも罪悪感が半端ない。  
シヤロちゃんの姦計からチマメ隊を護るつもりが  
どうしてこうなった。今、マヤちゃんを気遣っても  
演技してる事がバレたらまた面倒になりそうだ。  
自分も演技に専念しないと。



「ほら、繋がってるよ」ろよく見て！

マヤちゃんが一番に大事なしてたバーズンが

ロリコン変態おっさんの汚いチンポで

とり返しつかない」となっちゃったね」

「そんな、うそ……」



ビク

みちいっ









ぐわんぐわん

カッ

カッ

ぎゅ...

ぎゅ

ぐわんぐわん



引き抜こうとすると擦れて痛むらしく  
動かさないと懇願される。おそろしく  
それは演技じゃない。動かないでしばらく  
繋がったままキスでもしてあげたいが  
盗撮中なのでそれもできない。





じっとしたままだと不自然なのでとりあえず服を  
脱がそうとするが抵抗されてしまっ。





挿入した状態では服が脱がせないの  
離れるため、ゆっくり抜こうとしたら  
悶えるマヤちゃんから喘ぎ声っぽい  
響きが聞こえた。

これなら動いても大丈夫か？

んんん

ビク

ぐいっ

ズリユッ

んんん





一旦、抜こうとしていたモノを再び  
奥まで入れ直すとさっきと反応が違う。  
少しづつ感じ始めているらしい。

リゼ先輩がセックスで気持ちよくなるまで  
かなり時間かかっていたのを考えると異常だ。  
あのハーブティー、本当に大丈夫なのだろうか？







んあッ♡

んあッ♡

ズキッ

ズキッ



マヤちゃんの抵抗する演技が弱々しく  
なったところで服を脱がし裸で密着し、  
シャロちゃんのリクエスト通り膣内射精。

イヤッ

はぁ

はぁ

ドク・ドク

シャロちゃん♡





あま...

あ  
うん...

びるるる...

じゅる

ギョッ

レイプ同然な初めてのエッチなのに  
マヤちゃんも同時にイッたらしい。  
怪しいハーブティーのおかげだろう。







もつとゆっくり楽しみたかったがマヤちゃんは  
下校途中だったので帰りが遅くならないよう  
軽く身体を拭いてさっさと着替えてもらった。

ハーブティイーの効果が悪くなったのか、後になって  
下手くそとか処女返せとか散々文句を言われた。  
どうやら演技じゃなく本気で痛がってたらしい。  
メグちゃんも痛いのを我慢していたかもしれぬ。  
メグちゃんにあやまるため電話番号を聞こうと  
したら紹介料の二千元を要求された。おまけに  
頼んでないのにチノちゃんの番号も教えてくれた。  
自分だけこんな目に遭うのは不公平だ！とか  
わけのわからないことを言っていたのだが  
謝礼の一万五千円を渡して帰ってもらった。

後は盗撮した動画をレイプ映像っぽく編集して  
シヤロちゃんに満足してもらっただけである。



自分がすでに処女でなくなっているじゃない  
まだ気付いてないチノちゃんだったけど……

居候してる女の子の過剰なスキンシップによって  
処女膜が喪失していたことが判明して大騒ぎに

つづく



# 表に出てくることのない裏設定



ストーカー♂

ブラック企業で外回りやってる二十代前半の男。値切り癖は無意識の職業病。取引先の町工場を買い叩きすぎで倒産させ、一家離散に追い込んでしまったことがトラウマになって精神を病んでいる。そのせいか両親のいないシャロの境遇に過剰に同情してしまっているところがある。癒やしを求め仕事の合間をぬってはフルールに入り浸る。

ストーカー♀と一緒にシャロを変な目で見てはいたものの、当初はシャロに恋愛感情こそ抱いていなかったのだが、シャロとの援交で童貞を卒業したことで変な方向にこじらせてしまいストーカーとして本格的に覚醒してしまう。

シャロのことを『お金のためなら誰とでも平気で援交しちゃうビッチ系女王様』だと思い込んでてシャロが生活苦から安易な援交に走らないよう毎月一万円の仕送りをしているが、シャロからはお金を送られる理由が不明で気味悪がられてる。



ストーカー♀

シャロを精神的に追い詰めている原因の筆頭。ストーカー♂とは仲良く談笑していることが多く友人からは彼氏ではないかと疑われたりしてるがもっと年上の男性が好みで年下は恋愛対象外。非処女でガチレスではないはずだがシャロに対して異常な執着を見せる。

高校生の頃に信頼していた人物から裏切られて男性不信に陥り、ずっと引き籠もっていたのだが出版社に勤める友人の支えもあって小説家として社会復帰に成功した過去がある。しかし、その人格はいまだ壊れたままであった。

性的衝動に素直になることに非常に肯定的。シャロをモデルにした官能小説の新ネタが思いついたら、シャロのいるフルールを訪れて興奮しながら新ネタをシャロに披露したがる。



# 表に出てくることのない裏設定

小さい頃、偵察と称して近所のカフェを覗きにいった時経営難に自暴自棄になっていた店のマスターが客の女子校生に襲いかかっていた場面を目撃してしまう。それが後の人格形成に悪影響を及ぼしたのか、副業として援交の斡旋を手がけるようになった。シャロを精神的に追い詰める原因の三番手。



シャロちゃんの隣人

バイトが大変そうなシャロちゃんをサポートしてあげられるようにストーカー♂を紹介したのにシャロちゃんが相場よりずっと安く買い叩かれたり、お金の困っていたリゼちゃんに援交をすすめるようにストーカー♂に相談したのに仲介手数料を介さない関係を勝手に結んだりでストーカー♂との仲はかなり陰悪なものになっている。処女か非処女か未定。

父親が軍人のお嬢様、軍人が本土から離れた土地で豪邸に住んでる事実は世界観を難解にしている。ファザコンの気があるが最近では反抗期気味。父親のワインを割ってしまったから売春して稼ごうと計画していたあたり貞操観念と経済観念は緩い。



リゼ先輩

ストーカー♂とは三十万円と引き換えに一年の愛人契約を交わし、月一の間隔で会っている。風俗嬢やAV女優の真似事を強要されてもなんなくこなすが攻められるのはちょっと苦手。異性と触れ合うことにそれほど抵抗はないけど同性のシャロからの視線は怖いと思っている。シャロを邪険にしているということはないのだがシャロを精神的に追い詰める原因の四番手。

ストーカー♂はリゼ先輩のバイト先に興味津々だが援交するような男をチノに近づけたくないためラビットハウスには近付かないよう警告している。

男に要求するハードルが高すぎることもあってか、ストーカー♂には異性として魅力を感じておらず好意を寄せられても仲が進展する気配は全くない。



# 表に出てくることのない裏設定



謎のハーブの自家栽培を趣味としている。天然由来の成分なのでオーガニック的に安心。友人に人体実験する前に変な草をその辺の兎に毒味させているので健康被害の心配は無用。

マヤがレイプされていた映像には満足した模様。マヤの泣き叫ぶ姿に性的興奮を覚えてしまう。少しずつストーカー♀に感化されている。以後、ちょっとだけマヤにやさしくするようになった。

冷静になった後、勢いでストーカー♂とした約束について激しく後悔する。映像を繰り返し見ながら、今度は自分が同じように乱暴されるという恐怖に怯えて眠れぬ夜を過ごす。

ストーカー♀からのセクハラに悩まされていてセックスを経験すれば動じなくなるだろうという考えもあってストーカー♂との援交も了承したが男性恐怖症のトラウマが追加されたただけだった。



新しいゲーム機が欲しいけどお小遣いが足りなくて、通ってる学校はバイト禁止だけど何か簡単にお金を稼げる方法がないかシャロに相談したのが間違い。チノとメグは別にお金が必要だったということもなく強引に誘われただけで完全にとぼっちりである。

裏でシャロが糸を引いていたことには気付いてない。あの後、シャロが勉強を見てくれるようになったのは変質者を紹介してしまったことのお詫びなんだろうと思いついでるが、シャロの眼に怪しい光が灯りつつあることにはまだ気付いていない。

いつかストーカー♂の淫行現場を盗撮し、その写真で脅迫して金を巻れないか復讐の機会を伺っている。自分で援交に誘うべきか、それだと怪しまれそうだから誰かに囮役を代わってもらったほうがいいか思案中。























































